八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: レシプロ型畜力モーア	現地の通称:

資料種別: ◉製品−実物 ○製品−レプリカ ○製品−模型 ○製品図面 ○写真等 ○図書掲載 ○その他

資料種類:
- ☐人力用具 ☐手押式 ☐耕耘用 ☐調製用
- ☒畜力用具 ☐乗用式 ☐施肥播種 ☐施設類
- ☐原動機具 ☒牽引式 ☐管理用 ☐機素
- ☐トラクタ具 ☐定置式 ☒収穫用 ☐その他

管理プレートNo.

台帳No. Y161

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: Lanz 社

製造市・国名 ドイツ

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

畜力牧草収穫調製機は、明治維新を騒がせた七重のガルトネル農場、1872−4年に開拓使がケプロン顧問の指導で開いた官園に輸入されたし、1981年の天皇の巡幸の際には、札幌農学校でプラウ作業の他にモーア、テッダ、レーキによる牧草収穫作業を御覧に入れるなど作業機が完成期に達しており、当時の機種から第2次大戦後まで出荷される国産機に至るまで外観・形態が変わらないため、これら機種の導入年代の判定は極めて困難である。
モーアは、カッタバーとピットマンで往復動するナイフバーが床屋のバリカン状作用を行って牧草等を刈り取る畜力農具であり、その動力は機体の車輪から得ている。これに草地の末端で旋回する際にカッタバーを持ち上げるリフト機構が付いている。

利用経過収集記録意義等

八雲郷土館の本機およびヘイテッダとヘイレーキ等は、入植後の農業を根本から見直し、カードY169に記載するように自立経営を促して「酪農の八雲」を切り開こうと決心した1890〜1900年代に、牧草作業の機械化を図ろうと導入したと考えるのが妥当であろう。あるいはその際に設置された青年舎に買い与えた機種かもしれない。

利用経過を知りたい

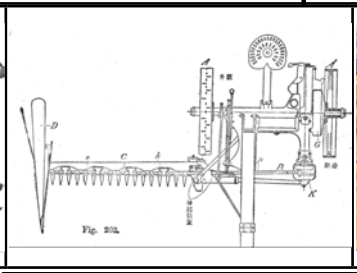
仕様書_解説等

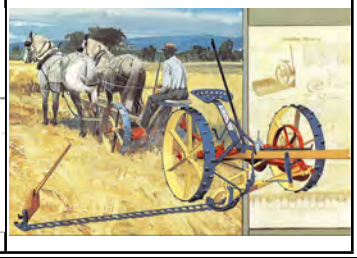
仕様未調査

関連図 1：機体上のメーカ名
2：作業風景
3：構造平面図
4：作業風景

右に全体図

外観特色関連図等





資料の所在: 別館収蔵庫

資料追記事項:

資料管理経過:

作業メモ追記文: